

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.1 (1966. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

- 山崎 功著
『バルミーロ・トリアッティ
——その生涯と業績——』……………飯 田 鼎 106
- 湯村武人著
『フランス封建制の成立と農村構造』……………渡 辺 國 廣 107
- 柴垣和夫著
『日本金融資本分析』……………飯 田 裕 康 108
- P・B・ケネン著
天野明弘訳
『国際経済学』……………大 山 道 広 109

コーレルリッジとミル (二)

由 良 君 美

さて、岩波文庫の新版として、『ミル自伝』をコス稿本に依存しながら、ラスキ版の伏字箇所を補充しようとした訳者朱牟田夏雄教授が、コス版によつても、なお、ラスキが述べている、「父および妻との関係」にふれた削除箇所とおぼしい部分は埋まらないことに、不審を表明しておられることは、前回に述べたとおりであります。同教授の言葉を次に引用すれば、

「本訳書では、従来の版に欠けていて今回はじめて活字となった部分を、熱心な研究家の便利にもと、「ハ」でかこつて区別しておいたが（すべて第七章のみにかぎられ、合計で十一カ所である）、その部分はすべて上記ミス・ヘレン・テイラー自身に關した記事ばかりであつて、ラスキ教授のいうような「父および妻との関係」にふれた字句は一つもない。また数量的にいつても、十一カ所のうち八カ所まではほんの一行ないし数行であつて、やや長いのは三カ所だけ、その合計は上記「数ページ」……というのにはすこし足りない。……すくなくともラスキ教授の「調査」した原稿と、コロムビア大学の蔵に帰したという原稿とが同一物であるかぎり、前者の記述と、後者による本訳書の「ハ」部分の内容との不一致をどう説明したらよいのか、これは現在の私としては単に「不審が残る」といつておくほかはない。ラスキ教授がいろいろ加減を書く筈がない